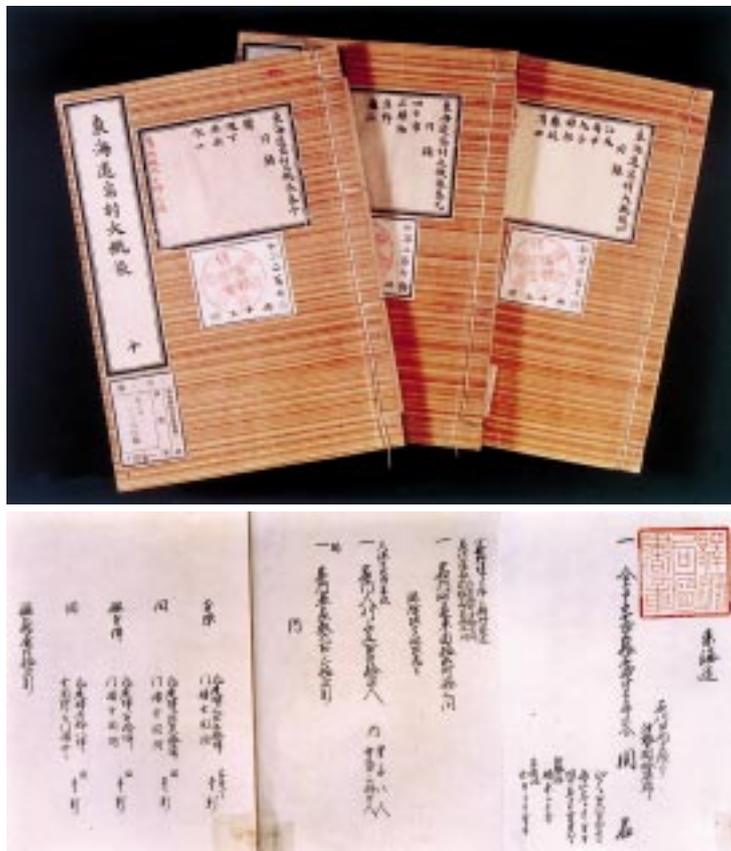


宿村大概帳



「宿村大概帳」は、幕府の道中奉行所が調査した五街道とその脇街道の宿駅の記録で、53冊が収蔵されています。各宿駅の人口、戸数、本陣、旅籠の数、高札の内容、道路の広さ、橋、寺社、地域の産業、特産品など宿駅と街道筋の村落の状況が詳しく記載されており、前号で紹介した「五街道分間延絵図」と合わせて道中奉行所が使用したと考えられます。

本書の成立年代は不明ですが、天保より安政年代（1840～50年代）にかけて調査されたものと思われます。

五街道の全宿駅を調査した記録として現存するのは本書だけであり、近世史研究に欠かせない貴重な資料となっています。

（掲載写真は、東海道宿村大概帳と関宿の記載部分で、江戸や前後の宿までの距離、男女別の人口、宿内の家数、本陣、脇本陣の坪数、旅籠の数等が記載されている。）